

玉鐏百首

全

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25



人の主としてハ萬民の心をもて心として萬民の家をもて吾
家として萬民の衣服をもて吾衣としておのれなきを人の主
とむいふなり

人の主とハ天皇の御親の御上を仰られなり即皇國の
大君と座まゝしてハと云ふ御言なり○萬民の心をもて心
として云く萬民の心安くあらば大君の御心も安く若苦

本居宣長大人詠

玉鉾百首

完

樗廸屋藏版

玉鉾百首

本居宣長大人詠

つぎさうたづのみる處と天地ふいてりとわくは日れ大御神
 天つちれきはとほてくは多くひうる日の大神のみちをこのち
 高みくく天つ日嗣と日れ御子のうけつてまは道もこれ道
 天のちと青人草此らさよひ小御うげとよそる道も去の道
 二柱御たやの神を玉鉾の世世中の道はト欠る處へる
 天の下國をたわげど神ろぎのうも好ませるおを八嶋國
 日れ神のちと御國と御國を百八十國のはくふたや國
 百くふの國のまほろも大や處とまがな君のきこいとひふ

かこきやせめく御國もはらふく安の國くふのまほくふ
百八十や國もわれども日此本のこれの倭りまは國のらふは
天地のときへのきはみまだぬとも御國ふまるとよはるらや
大穴牟遲少名御神のよらくも造りかゝり大やま國
まひづらや常世のかゝり八十國も少名毘古那とつぐせりけむ
物みなもかはりゆけどもあま川神も大君の御代をわじへ
くぶぐの君をかはれど高光るまぐ日此御子の御代をかはら
天ても月日かげをある國も本つ御出小つうごつはるや
とろくの如死國人も日此神のひうりえんをいふをせむ
さかいらふ言奉もそれどか國もひるえの神のそは國內を

皇神の道ちねこそ言さぐかろは人をさかいらをなれ
天ちち日此大神の道をおきてよこされ道ふまどくふはひと
明くけさ日此大神の道ちねくはさうらさくたつなあ
外國もかみ代のつゝなをなれこそまこと此道をちげりけれ
くぶぐ小傳をちとぞ日此本小本のまことこのせをいつはる
上つ代のかちちあくえよつこのり吉事とまをみのかぐみ
まつぶさふいつぞちまあふくをや陸を御書の世ふなかり
神の代は事らこころ傳へ来てあるせる御書見れどもふは
まを鏡見むと思さかろごは塵おくもれり磨てよまむ
あるべしと醜のものちりけろくふよこされちり人まどをい

さかしく神代の御書や記まげて漢のこころふたひが悲しき
かたむねをなす思ふ書らよむ人のこころを知らずかたむね
からぶる形をいへばと大直昆神のなをびをみひのこまつれ
伊豆の先のつづれみはを得ていへばかたむねまがれる事さうてん
久方此天つ月日此影もえどかたむねをいへば雲一晴むの
かたむねれきなりつてせし志なとべの神のいへば此思ふつれ
下ぶこころか書川をせこころかかこころ川であらむむなゆめ
まもむこころ心さくし里なすくふから此教を人いへくまら
みくふをいへば神國と人くされ心もなをいへば物となひもよ
かたむねのさうしこころつりてぞ世人のこころあはくなりぬる

日此本のやまををあらせてやつ國小むる心となふれこころぞ
言奉せぬまはあれどもまがことのとつげこころとこと言奉せまは
まがつひい世人の耳うふさくし真事かさればさく人此なれ
あやうれもこれの天地うましく神代もこと小ちやしくつりけむ
まらゆべき物なうなすく世の中れこころ神なすいへ
まらゆきつてもあれの志れものさうりても世のこころ底ひな物
とまはしれともりまらびて漢人此物のことわりやまはらなま
ちやうれをあくしやうかま世中のちやうれをぬれ心うを
さかへば人のさうりハかたむねを神代志まがいはさくし
人みな物此こころかたむね思ひさうりていへばかたむね

つゝな記事しきまづはしもなむえぬこととておぼえておぼらん
つゝはしなるとも似たるまづいづれ外なぞへてあるかまらむ
世のなれあるおもひきは何事も神代のつとを尋ねてまゝ曲
をろくのなりつるもとハ神じとび多うみむせびれ神のむとびと
あゝはふれ事も大きみかゞこととて大國主のかみれみこころ
目小えぬ神のころれかみごととてかゝに想ておこな思ひを
世のなうれよれもつれもこととてふ神のころれをまづよある
よれふと小まごことつれまごこととておぼえ事つゞ世のなうれ道
世のなうれよれまごこととてまごこととておぼえ事つゞ世のなうれ道
おとわりれまごこととてまごこととておぼえ事つゞ世のなうれ道

とてまづび八十まづひのまづこととておぼえをさくらやよれ人よれせぬ
よれ人をよれくろむる禍津日の神のころれはまごこととておぼえ
天てついで大神神も子早ふる神のまづびかゝこととておぼえ
おふけなく人のつやれ力として神のなれまづつとておぼえ
つとておぼえ何のさのつとておぼえまちはふ神つとておぼえ
つとておぼえまづつとておぼえつとておぼえつとておぼえ
をぢねたがまくる思ひて神といへや人小くこととておぼえ
神といへもみないととて思ふや人鳥なるもつとておぼえ
いへけいづちあゝはまづつねや龍のまづひも神のかゝは
さかごとも神小しられたとて道も廣けし神の道はまづ

いつくべき神とちかかそく外國のけしと神をいつくとも人
多なる物とこれ本草も天ては日大神の免ぐもえてあて
朝よひ小物くふと小豊宇氣の神の免ぐもをたもへよれいと
天地の神の免ぐもくなくりせを一日一夜もつりえてあしや
八雲と川出雲れうみをいう小思ふ大國主を人もあぶびやと
いのちつくとひ物きよのまむ家ら君の免ぐもを神のめぐま
天ては神の御民を御民とねわろく小生なつづれるひと
物つくる民と御多くつくるははいふせんとう民とつむる
よとたうみの免ぐもおもひ人草ぞよの中の人あしくしなゆあ
世はおやの御かげまもるね代はおやも巳氏神巳が家の神

父母をわが家は神わが神とこころつくとつつけ人のま
ぬえ草は免ぐもやつてらハ皇神のまづけ一實うつくとせよ
かもかくも時のみのり小をむるぬを神のまよと此道よいらりける
やまきくは御のりも神の時此御ことやられぬいとを免ぐもはむ
今此世はいま此みのりをかこみてけしき行ひおこなふも免ぐも
やま國のやまけけ代ふもまれらひてやひけそわれ物思ひも免
かりことのみぐれりしはさく時治まれる代もこころりり
まをりぎふ小神のよませる御やと飽まぐたぐりるが樂しき
事しわれをうれかやと時ふうごころそ人おまごころ
うごころそ人の真心うごころとひてをこころ人もいはふ

真ぶろをつみかゞくそくひていつもりまほ漢のなほは
かた人の志まごなうひてかざらひて思ふ真心つ月まらぶーや
あまたはる二世ゆらぬうつそ身をいくふせも死なびてらむ
うつそ身もまぶたの物ららぬふ此世まうれてまうるおもへだ
まてくたの國よみのくふべいなるこえふ代とはふ此世ももを
ちはやぶる神の心をなごめいも八十はまごことなふやのうらむじ
家も身も國もけがれぬがれは神のつゝまゆゆーたつみ
竈の火れけがれゆーも家内を火ーけがれぬが禍おこるこもの
けがれをー罪もあふふみそらぶてもどろも人ごらんがつふせ
つなかりこよもつふひの禍よりぞもろくの禍れりそえける

つみらを清に川瀬ふみをたてて早秋は始ふもやらうらめよ
まがことをみそがせれそ世をてて日月は神をなかりいでませれ

阿麻理歌

かづくも百ちのうとふむだわるところのをろをのばへつるをも
思ふこころくへどなき言霊のさだはつらまてりりなり
百うとふふちちりてもられど十歌ゆも思ふころとらふつらどくも
やまこーへ小世をててーまほ日のみまほつけー鏡も伊勢此大神
ひじろー此國のやまむけてみつるだもつ田の宮小まづまりいまは
久方此天つ日嗣の御あうくと御とやまはなごぬやうはがまほ

みづ垣の宮は大神代も天地のかみをいはひて國さうえけり
めりやくもかゝ此國をこゝむけの神のさしとてあまをたれらる
古よを今ふつばふつへ来て文字も御國のひとひみこころ
みまげすし蘇我のうまこを天地のそこのひのうらふらまらつし人
くねるふれうはこが罪もきこめしてさうら人のせえなふまき
馬子らが草むせかはね得てしごもきりてはふつて耻えせまを
わぬれとこもきつとりふまふさけむ君のまのりのつるねちちや
鎌倉のふひうれつをがさうわざをうへ大君のいかせりける
ねきの嶋ゆゑ矢かくせいでまゝ御心おやへなまゝなりぬぐる
ねもかさぬ徳波のぞまゝさう時よづのをまも髪さうたつを

かほくのあひの子等があはまといとれ馬子小罪おとちや
大きみをなやえまつり多支れらが民はぐみて世をたむじし
まがらびのとれまがらぶ世の人むらひまごり時のかたさ
よたんとしふもあごと鎌倉のあひの子等えくふのつとびせ
ねふけねく御くふせえむともろこのかたのこたははははは
かこたやをえくみくさふつむひてなやめ奉りたおれし
いらなも神のちろびぞ真木のくらら山中ふあみか御代経
かく國ふびてつくてあかかこのまも臣御國けが一つ
天のまてくやと夜ゆくをい足利のまゑのまのれのみあれせゆ
いつまぐろ光かくつせむ久かた天ののは戸もあまはこそ

まづはくを織田のみやまをみるべをいひまふていそした大臣
まろはぬ國等こもくもつて朝延きより一豊國に神
やよ國の神の御つるもろこのかはとれもおちまふすま
らづまてる御神多ふやう一天皇をつつたまつて御つるをん松
安御代少君はお御代をつつする神の命ぞかえぬまへる
東照るかはとれ安國とまつ免まへける御世をよろづ代
玉鉾百首終

本末歌

川上乃丹生此を山斧なるを榎木此大木茂中の間茂宮
木小らこもて山津見小のこくも終る本末此よやわらふ
るく赤根さし豊ちうのなる日の本れこも此俵六掛おく母
綾おかしら天照は其日神乃ら座一木此御國也其御
子此志し御國を其神乃御う兼かぬる天地のそこひ
うら小天傳ふくもその木小むらもその年終るも終るこ
玉これの小國大國百八十の國を多をも日此木乃其國
八木國也木此志し小もちれを里れうらひるつみ言清
くいひるい牙持母刺竹乃君成るみして奴等伊君小うハ

まみ君もいも奴もいりぬるも吉野川早に時をも國に本
道の本も水鳥にも文をわす文列もこれみされり成
本國の本に神代乃御よさし此本にま少く石上なる野の
道に本柏本かこくして望月のうけ文動う文久く此天津
日嗣を神にうらや継ぐに年くはう小傳りる座て大
君を神にしちて築高御座多うに御蔭とものかみ乃
八十伴緒も天に下四面乃御民もを許るがういやはに
牙小かこみくちふごま終るいゑるさはる世くとしぬ
まば人國れさし牙よ終りやあうらに成ぬる此學夫入
まも母おかくらも抒母多るちりし神の米をみやとる

いぐふ本と忘ま文未だ此にけり母古れあや成尋る
本國乃てまらうはり許るもちや小なる言言奉
せぬ國をいはり言抒言奉りて多る牙は終るく葦原に
水穂の國を百八十九國のむや國もやその國に本國う
はり國秀國ま不國うら安の國

反歌

世に人乃本に本未思ひ文も未乃本未いふかあろを

明治二十年六月四日御届
同年十一月 刺成

東京府士族

高橋直記

編輯兼
出版人

岐阜縣武儀郡上有知村
十二番地寄留

美濃國武儀郡上有知村

發賣書肆

小坂弘三郎

京都宮所
中寫

28
1001975273

明治二十年六月四日御届
同年十一月 刺成

東京府士族

高橋直記

岐阜縣武儀郡上有知村
十二番地寄留

美濃國武儀郡上有知村

小坂弘三郎

發賣書肆

編輯兼
出版人

京都宮所

中真

江蘇勸業

女界

...

...

